



▲左から 富田とみえ、雲居佐和子先生、山本由起江(加瀬)、酒井京子(山口)

雲居先生の思い出

東京音楽大学講師 富田とみえ(旧姓 杉山 第十九期生)



附中の音楽室で、入学したばかりの私達は、まずは校歌を先生に習いました。

先生の附中での音楽の授業は、今思うと音楽大学附属高校に匹敵するようなレベルでした。どんな楽譜を読み、どんなキーでも合わせて下さる先生の素晴らしい伴奏で独唱し、そして宿題では作曲まで経験しました。

先生が授業で曲目解説をしてからレコードをかけて下さって、私たちはたくさんのお名曲に触れて、クラシックの素晴らしさを知ることができました。

そして学校で皆で見に行った映画、サウンド・オブ・ミュージック。後に先生から「あれは私が見て感動し、附属の子供達にも是非見せたい」と思い、校長先生に掛け合って実現した」と伺い、先生の熱い思いに頭が下がりました。

中学でお別れしてから、先生とは年賀状や演奏会に来て下さった折に批評を頂く、それだけになっていましたが、十二年前私は先生が幼少期を過ごされた文京区小石川に転居した事から、「先生、懐かしい所、是非来てみませんか？」と同期生二人とお誘いし、再会が実現しました。そのとき八十歳を過ぎていらした先生は、生徒さんの思い出

話をされました。先生にはたくさんの卒業生がいるはずなのに、一人一人の生徒について本当に良く覚えていらっしゃって、私達は大変驚きました。私の家ではピアノの前に座って暗譜で校歌の伴奏をされ、私達三人は姿勢を正し校歌を歌いました。あの時は皆中学生に戻っていました。

あの日私達は「先生のお陰で豊かな学校生活が送れて、音楽が大好きになった事に心から感謝しています」と先生にお伝えすることができて、本当に良かったです。又、先生が御高齢なのにご主人様を家で介護された事、お一人になつてからはピアノの練習や読書で充実した日々を過ごされている事などを伺いました。

先生のたゆまぬ向上心や、人に対する温かい愛情、音楽に対する純粹さ、すべてが私達にとっては素晴らしい贈り物でした。私達も先生から学ばせて頂いた心を大切に生きて行きます。雲居先生、本当に有難うございました。

